

友好都市 三宅村を紹介します



三宅島の風景 ©三宅島観光協会

友好都市である三宅村（三宅島）は、都心から南南西に約180km、伊豆半島からは約80kmの太平洋上にある、周囲約38km、面積約55km²のほぼ楕円形の火山島です。

本市と三宅村は、江戸時代末期の侠客小金井小次郎が三宅島へ島流しにされた際に水不足などに悩む村民の姿を見て井戸を作ったことからつながりができました。その後、小金井の桜、三宅島のアジサイの花の交流が執り持つ縁などで、昭和53年10月に友好都市盟約を結びました。

市では、これまで市内小学生を対象に、三宅島の自然・文化を体験し、

三宅島の児童と交流する事業の開催や、双方で開催される祭りに出席するなどして交流を深めてきました。また、小金井三宅島友好音頭（小金井三宅島友好協会作成）も完成しています。

三宅島に関する情報は、三宅村役場、三宅島観光協会のホームページ等をご覧ください。

☎コミュニティ文化課文化推進係 ☎042-387-9923



三宅村役場
ホームページ



三宅島観光協会
ホームページ



富賀浜のテーブル状サンゴ ©三宅島観光協会



アカコッコ
(国の天然記念物・国の絶滅危惧IB類)

バードアイランド三宅島

三宅島は、野鳥の生息密度がとても高く、人と野鳥の距離が近いことで知られています。日本固有種のアカコッコをはじめ、島の中で独自の進化をしたオーストンヤマガラやタネコマドリ、分布が限定されているイジママシクイ、ウチャマセンキュウ、カラスバトなどを見ることができます。

火山活動が織り成す独特の景観

約2,500年前の火山活動によって生じた火口湖「大路池」をはじめ、爆裂火口跡の「新瀧池跡」、1940年（昭和15年）噴火の際に生じた「ひょうたん山」、1983年（昭和58年）噴火の溶岩に埋まった「旧阿古小中学校跡」など、火山活動のすさまじさと、量り知れない自然の力を見ることができます。



大路池

ACCESS



青少年自然・文化体験交流事業 in 三宅のようす

